

第 27 回奈良市文化振興計画推進委員会 会議概要			
開催日時	平成 30 年 5 月 14 日（月）午前 10 時から午前 11 時 30 分まで		
開催場所	奈良市役所北棟 6 階第 23 会議室		
次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 ・奈良市文化振興補助金について		
出席者	委員	中川会長、村内委員、山下恭委員、山下里加委員	
	事務局	園部市民活動部長、中川市民活動部次長、谷田文化振興課長、川井補佐、小谷係長、荒益、大西、一柳（以上文化振興課）	
開催形態	公開 （一部非公開）	(非公開の理由)	奈良市情報公開条例第 29 条第 3 号
		非公開の具体的な理由等 奈良市文化振興補助金の交付候補事業の適否審査を行うにあたり、委員の公平な判断を確保するため、一次審査及び二次審査の採点・評価に関わる部分について非公開とした。	
決定事項	●今回の会議録の署名は、中川会長と山下恭委員が行う。 ●特定非営利活動法人なら国際映画祭実行委員会主催事業「なら国際映画祭 2018」を都市文化推進事業支援補助金②国際的発信型の交付候補事業とする。		
担当課	市民活動部文化振興課		
議事の概要			
(この委員会は、奈良市情報公開条例第 29 条第 3 号の規定により一部非公開とする。)			
1 開会 ・事務局より本日の会議の成立について説明した。			
2 会長挨拶 ・本日の会議は奈良市情報公開条例第 29 条第 3 号の規定により一部非公開とする旨説明があり、出席委員全員の承認があった。 ・本日の署名委員は中川会長と村内委員であることを確認した。			
3 議事：奈良市文化振興補助金について (事務局から議事説明) 奈良市文化振興補助金要項および要領について、第 25 回、26 回委員会で再度意見をいただき完成した。今後は要項、要領に基づき委員会にて補助金要望事業の適否審議を行い、その結果に基づいて予算を作成していくこととなる。			

本日は 5 月 11 日に交付要望のあった 1 件について審査いただく。要望事業が補助金交付にふさわしい事業であるかを検討いただきたい。

団体名：特定非営利活動法人 なら国際映画祭実行委員会

事業名：なら国際映画祭 2018

補助金区分：都市文化推進事業支援補助金②国際的発信型

(審査方法について、事務局から説明)

審査の流れについて

一次審査では補助金の交付要望者から提出された要望書等を精査、採点いただき、二次審査の対象となる事業であるかを決定する。

二次審査では、プレゼンテーションを実施し、一次審査の採点と併せて総合的に評価・採点いただき補助金の交付候補事業の適否を判断いただく。

審査項目について

審査は、共通項目の公益性・有効性・適格性・必要性の 4 項目と、事業別項目のいずれか 1 項目の計 5 項目において行う。今回は、事業別項目は「都市文化推進事業支援補助金（国際的発信型）」の審査である。

それぞれの評価基準については、奈良市文化振興補助金審査要領の別表 2 を参照。

一次審査の方法について

交付要望事業に係る要望書等について、15 分間各委員で質疑・意見交換等を行った後、「審査項目表（委員記入用）」の一次審査欄のいずれかの点数に○をつけていただく。

点数の記入後に文化振興課職員が回収・集計を行い、審査結果を報告する。

各委員の審査の点数の平均が 50 点未満の場合は、交付候補事業としないこととする。

一次審査（書面審査）	採点・集計	（非公開）
------------	-------	-------

一次審査の結果

評価平均点：82 点

→申請事業は二次審査の対象となることが決定。

(二次審査の審査方法について、事務局から説明)

交付要望者より約 15 分間のプレゼンテーション、その後、質疑応答を約 15 分間していただく。

それを受けて、「審査項目表（委員記入用）」の二次審査欄のいずれかの点数に○をつけていただく。点数の記入後に文化振興課職員が回収・集計を行い、審査結果を報告する。

各委員の評価の点数の平均が 50 点未満の場合は、交付候補事業としないこととする。

(交付要望者特定非営利活動法人なら国際映画祭実行委員会のプレゼンテーション概要)

- ・なら国際映画祭実行委員会は、映画祭の開催や映画の制作を通じて若い人材の育成、新しい文化の創造、そのような活動を通じて奈良を発信していくことを趣旨目的としている。
- ・なら国際映画祭は、今年で5回目を迎え、9月20～24日の5日間を予定。
- ・事業の重要な使命のひとつが、次世代の育成である。初回から継続している NARA-wave 学生映画コンペティションに加え、今年度新たに、こどもや学生を対象としたプログラムのさらなる充実を図り、金沢こども映画教室及びベルリン映画祭スポットライトジェネレーション部門とのプログラム連携を行う。
- ・なら国際映画祭の大きな特徴は、海外や国内映画祭とのプログラム連携である。カンヌ国際映画祭とのシネフォンダシオン部門とのパートナーシップ締結、ベルリン映画祭のスポットライトジェネレーション部門とのプログラム連携については、世界三大映画祭のうちの2つの映画祭との連携が実現し、国内の他の映画祭には例をみない快挙である。その他、ショートショートフィルムフェスティバルアジアと連携しシネビジョンというプログラムの実施、山形国際ドキュメンタリー映画祭や大阪アジア映画祭とのスタッフ人事交流、TBS主催の DigiCon6 ASIA (デジコンシックスアジア) の上映協力など。多数の事業と連携することで、国内外に奈良を発信すること、国内外の方々との交流を深めることが可能になっている。
- ・コンペティション作品は、ジャパンプレミアを基本としており、世界の最新映画に日本で初めて触れられる機会を、奈良で創出している。東京でもまだ公開になっていない映画を、映画館のないこの奈良で上映するというところに話題性もある。
- ・運営は、300名以上のボランティア参加によってなされており、それぞれのスキルを活かして、それぞれが輝く場所となっている。首都圏からの参加も多く、映画祭で出会った人が交流を深め、同窓会のように映画祭に帰ってもらうことで、交流に厚みを増すとともに、事業の継続性においても安定感を増している。
- ・経済波及効果について、中心市街地の飲食店とも連携協力をし、屋台を出したり、期間中の食事は中心市街地の飲食店で使える食券を発行することで内需性を高める工夫をしている。また東大寺、春日大社を会場とし、興福寺・元興寺の存在するエリアで開催していることは、観光客にも喜ばれて、ますますの経済波及効果が高まることも期待される。
- ・資金計画について、奈良市補助金だけでなく、多様な財源確保を行っている。寄附や協賛金のお願いは、奈良県のみならず東京・大阪に向けても行っており、新たな才能を発掘し、海を越えて活躍する若い人材を育成する趣旨に賛同いただける方々から集めている。
- ・我々は、奈良の地で、世界の映画制作者の個別で独創的な映画世界と出会う機会を創出したい。違う生活文化であり、違う価値観を持っているけれども、人間同士であれば分かり合える普遍的な思いを、映画を通じて共鳴できる場でありたいと考えて作品選定をしている。こうして選んだ映画を、神仏と人が共存するこの奈良で世界の人々とともに、共鳴しあうということが、世界平和の実現の一端となることを、我々は確信して映画祭

を実施している。行政とも協力して公益性を担保しながら映画祭を作り上げていくことが出来れば、奈良市の文化振興はもちろんのこと、世界の映画界に大きな足跡を残す国際映画祭へと成長していけると信じている。

- ・奈良には古い歴史があるが、この場所で何か新しいことを始めるにはなかなか困難であり、外へ出て行かなければならないというのが昔からの認識だ。しかし、それでは奈良から新しい才能が無くなってしまふことを懸念し、なら国際映画祭を開催しはじめた。とは言え、「なら国際映画祭は河瀬直美の映画祭」と認識を持たれることは本意ではない。この映画祭は奈良の映画祭であり、世界の映画祭であり、奈良で生きる人たちの映画祭であって欲しい。この奈良の人たちの映画祭を、奈良の人たちとともに作りあげていくためにも、正しい評価をお願いしたい。

(質疑応答)

- ・平成 30 年度の会場使用料について、28 年度決算からかなり増額となっている理由は。
→28 年度はならまちセンター会場使用料を減免してもらったが、30 年度は、オープニングの奈良県文化会館の会場使用料などを計上し、増額となっている。
- ・出演料が増額となっているが、国内外ゲストは決まっているのか。
→決まっているが、映画広報の関係上明記できない。
- ・映画祭の重点項目のひとつ、次世代を担う人たちに対する企画について、映画というジャンルの中で育てることと奈良との関わりが具体的に分からない。
→今回は金沢こども映画教室と連携し、金沢こども映画教室としては関西圏で初めて映画制作ワークショップを行う。この映画制作ワークショップでは、講師は手取り足取り教えるのではなくこどもたちを見届けることで、こどもたちの感性を伸ばし創造性を膨らませる取組をしている。
また今年パートナーシップ締結をしたベルリン国際映画祭ベーリナーレ・スポットライト・ジェネレーションズ部門は、「こどもをこども扱いしない」という重要なポリシーを掲げる世界で最も歴史のあるこどもの審査員がいる映画祭であり、同様に、なら国際映画祭でも 10 代の若者が「自分の眼差しで映画を観て、自分たちが良いと思う映画を選ぶ」ということをやっていく。
上記 2 つのプログラムと連携することにより、「こどもをこども扱いせず、こどもの感性をおとな同様認めていく」ことを行い、映画を通じて若者の成長とそのまた次の世代の育成に繋げる。またこの取り組みを奈良でやることで、奈良で生きているこどもたちが、映像という客観的に見ることが出来る媒体を通して、「私たちの街にはこんなに沢山宝物が隠されているんだ」と自分の生きている場所に誇りを持つ機会としたい。
- ・2 年前の奈良市からの補助金がなくなった後、活動は変わったか？
→応援団が増えたが、補助金がなくともできるのではないかという意見も一部いただいた。
しかし、世界の映画祭でも継続しているものは、開催地域からの補助金、国からの補助金、

協賛金という三本柱だ。また映画祭開催の本当の意義は、奈良の人たちに、映画祭を自分たちの継続的な活動の場としてもらうことだと考えている。誤解を恐れず言うのであれば、映画祭でなくても、それが心の中を表現して、生きる力になっていく文化の場であれば、若者は奈良を離れずに済むのではないかということも強く感じている。

- ・趣旨目的のひとつを「日本の新人監督の育成」としているが、プログラムの中には世界の新人監督を育成するものもあり、必ずしも日本人の新人監督の育成にこだわっているわけではないと感じる。このコンセプトのずれについて説明してほしい。
- なら国際映画祭は国際的な映画祭として世界の新人監督の育成を目指しているが、明らかに日本人監督の実力が弱いことから、そこに特化した育成もしたい。

二次審査（プレゼンテーション審査）採点・集計（非公開）

二次審査の結果

評価平均点：90 点

→委員会は奈良市文化振興補助金交付候補事業にふさわしいと、奈良市に報告。

（委員からの総論）

- ・誰に来て欲しいのか、誰に映画祭の思いを届けたいのかはよくわかるが、これからは誰に届いていないのかを把握し克服しなければならない。その為には、例えば若い研究者タイプの人材を新たに投入し事業評価をしてもらい、映画祭の意義を理解されていない人に、客観的な評価を届けるような仕組みが必要である。
- ・なら国際映画祭という事業は、奈良という土地に生き続けることの希望を伝えたいという、非常に貴重かつ重要なプロジェクトである。ここに住むことや都会へ出て行くことを当たり前だと思っている人々へどういう言葉で届けるのか、その努力や試みがこれから必要になるのだと思った。
- ・例えば行政が 1,000 万をかけても、映画祭ほどの事業効果や経済効果がある事業はできない。同じ 1,000 万を補助金として交付することで、映画祭の運営者のみなさんが一生懸命考えてやっていることに対して、奈良市民としてはありがたいと思う。
- ・プレゼンテーションでは、主催者の熱意がよく伝わってきた。こういった素晴らしい活動がここまで成長してきたということは、市民も行政も支援する必要があるのではないかと改めて思った。今後の活躍を期待したい。
- ・アイデンティティというのは選択された優れた個性という意味であり、奈良の都市アイデンティティを考えると、そのひとつは河瀬直美さんが手掛けるなら国際映画祭だと思

う。ふるさと納税でなら国際映画祭へ多額の寄付が集まったということがそれを証明している。これまでも、映画祭をすることで市民にどれだけの利益が還元されたのかという社会的福祉の思想で議論されてきた。しかし社会的福祉の思想では、都市アイデンティティを発信する映画祭のような事業は理解されにくい。そこから踏み出すためには、これしかない！というものを選択する勇気が必要であり、事業をすることで結果的にお客さんがたくさん来て、観光客も増え、市全体の経済的利益に繋がるという説明を入口にすると、広く理解されやすい。外部メディアによる経済波及効果の測定は推論であり、なら国際映画祭の場合、もっと効果が高いのではないかとさえ思う。事務局が実際に来場者にアンケートし、「映画祭に来たことでこれだけお金を使った」、「奈良に宿泊をしたか」などの調査をし、材料を自分たちで集める努力も必要である。100人分のアンケートでも大いに説得力となる。そういった実行を重ねていき、より経験と実績を積み、国内外へさらに認知度を広げていくという段階を踏むと良い。

- ・ 来場者の声を集める調査は、大学と提携してやれば、学生の経験にもなり、そういう方面でも人材育成となる。
- ・ 奈良は、伝統を大事にするとともに先鋭的なものも大事にするということが必要である。そのコントラストの中に息吹が生まれ街のエネルギーとなる。

議事終了、閉会

■次回委員会日程は後日調整